第5回拡張事業

昭和38年4月～昭和42年3月



［道ノ尾浄水場］
昭和43年完成
施設能力　11,160㎥/日





［萱瀬ダム（多目的ダム）］
昭和36年完成
（昭和40年より受水）
総貯水量　3,030,000㎥
水道有効量　360,000㎥
1日最大取水量　12,000㎥

産業界への供給拡大、加えて生活用水の増加と異常渇水でついに、一日三時間給水となる。

第4回拡張事業により給水状況もいくらか緩和されたかにみえた。

しかし、人口の増加に加えて、生活水準の向上に伴う生活用水の増加、産業界からの供給増加に対する強い要望、また、福田地区への給水区域拡張、さらには高台地区における住宅の建設等により、近い将来給水の悪化を招くことは必至となった。

1962年（昭和37年）は稀有の渇水年となり、9月から実施した給水制限は次第に強化され、ついには1日3時間の給水になった。

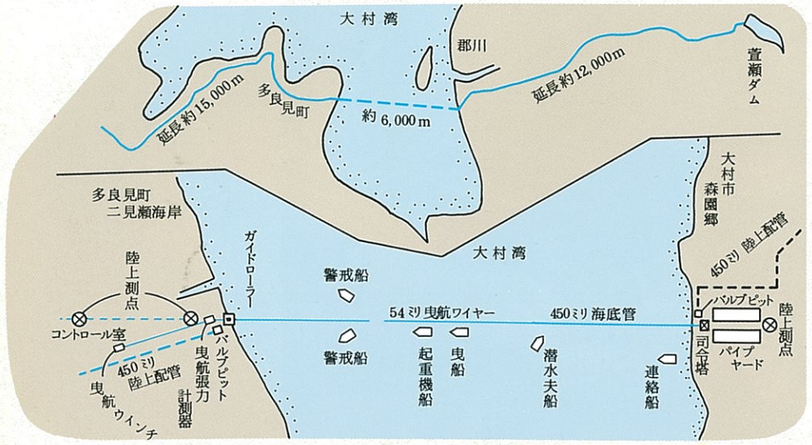
この危機を打開するため新規水源開発が必要とされたが、市域内に水源が求め難いところから、大村市を水源とする第5回拡張事業が計画された。

この計画は、大村市の萱瀬ダムから分水を受け、大村湾海底導水を含む総延長約33㎞の導水管により道ノ尾浄水場へ導水するもので、1963年（昭和38年）4月に着工、1965年（昭和40年）10月一部導水、1967年（昭和42年）3月に完成した。

第1次変更／この第5回拡張事業では、大村萱瀬ダム取水のほかに、宮摺川より取水し、小ケ倉ダムへ導水する工事に、1966年（昭和41年）6月に着手し、翌年3月に完成した。

事業費		1,603,400千円
計画	給水人口	401,600人
	一日最大給水量	101,360㎥
主要工事		萱瀬ダム 道ノ尾浄水場

大村市萱瀬ダムからの導水工事



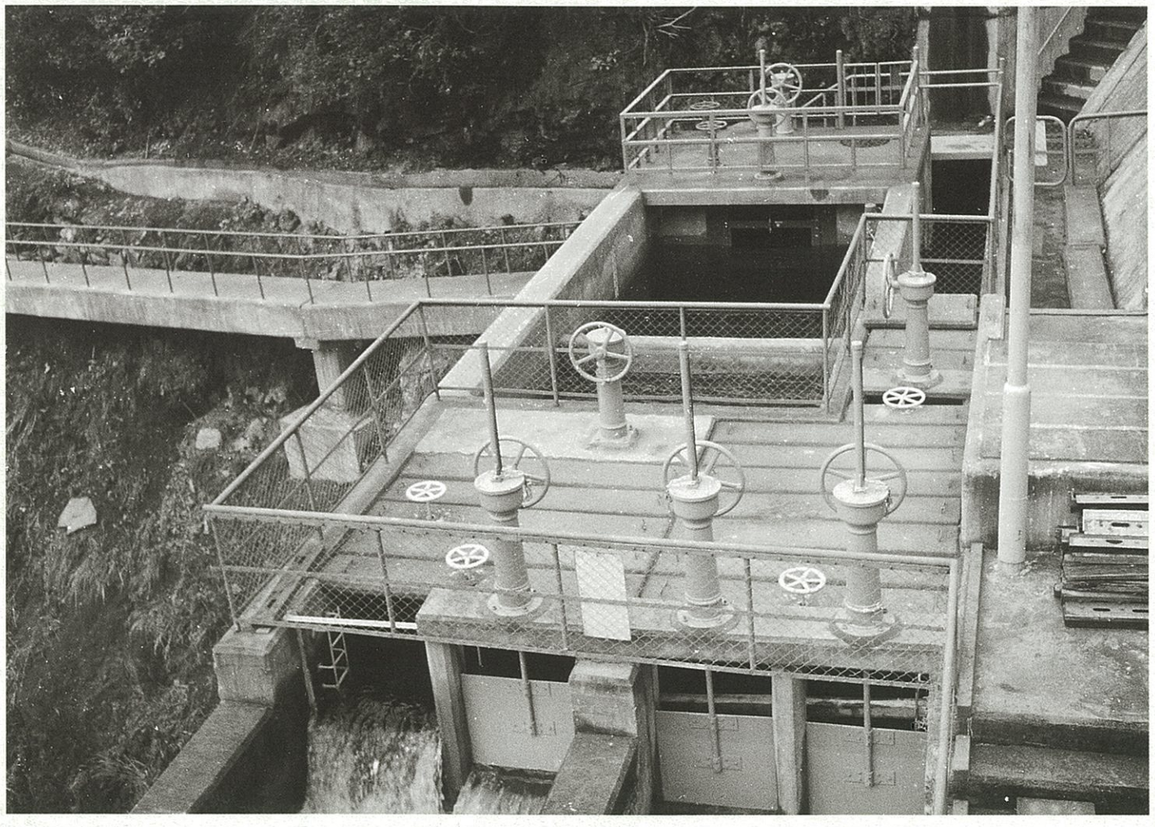
導水計画図

海底導水管敷設工事
長管(270m)製作作業

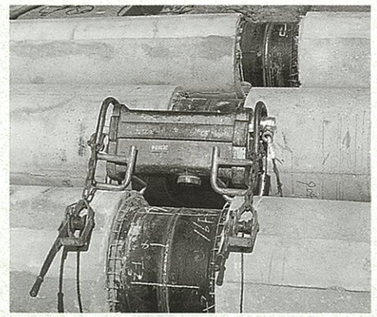


溶接作業
(溶接部分をシートでおおい、風や湿気を遮断する)

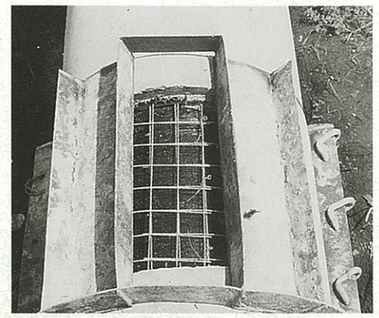
取水設備(分水槽)







上右／X線撮影(溶接具合を確認する)
上左／溶接作業
(自動的に溶接棒が送り込まれる。ホバートマイクロワヤー溶接機を使用)



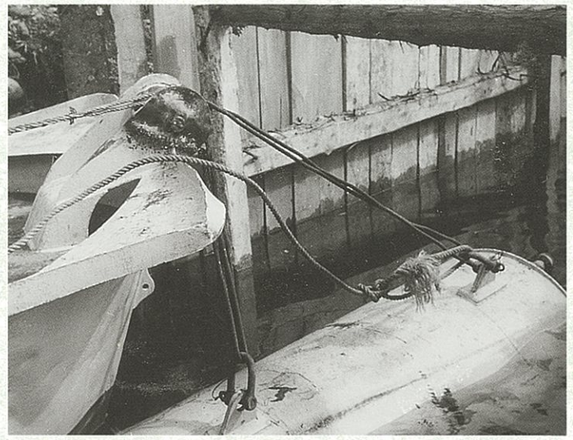
接手部ライニング用メタルフォームの組立て



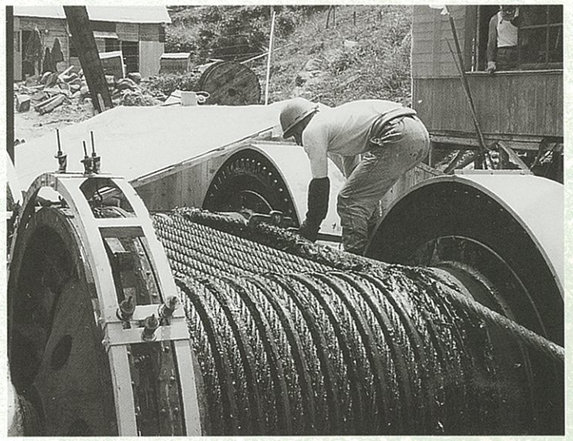
◀▼製作を完了した長管
加圧試験(33kg/㎠の加圧で1時間放置のテストを行う。)



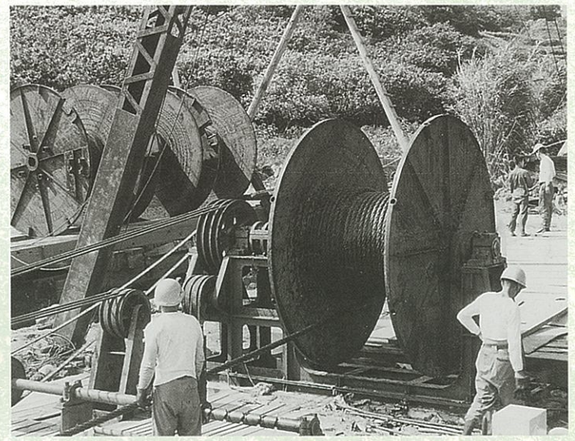
曳航作業



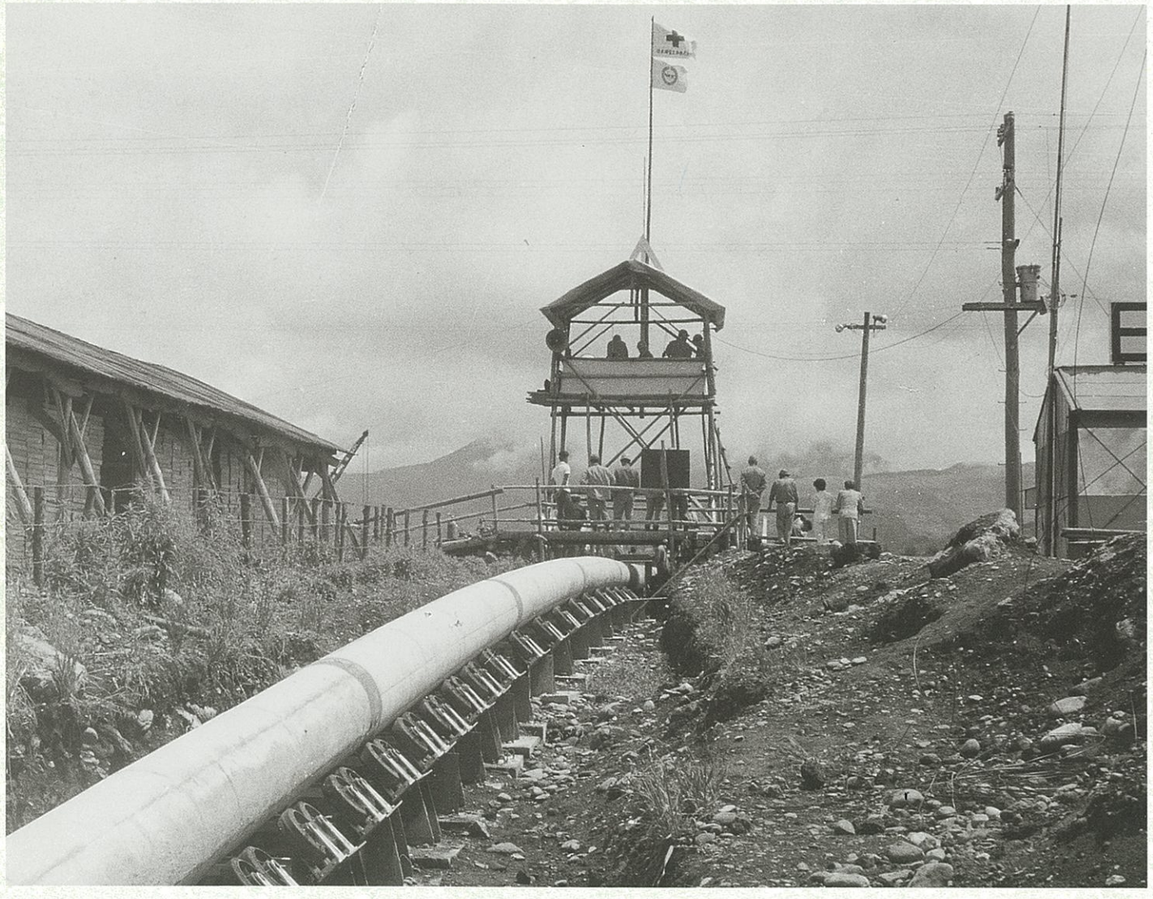
大村側海岸点に進出した曳航用先端フロート



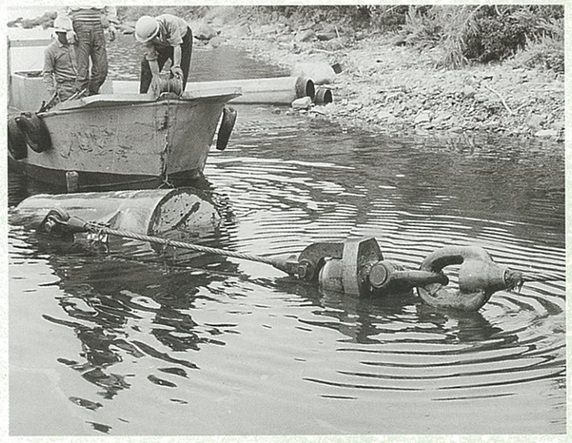
多良見町側巻き取りウインチ



巻き取り中のワイヤーリール



進水ローラーを滑っていく長管と司令塔



多良見町側に到達した先端フロート

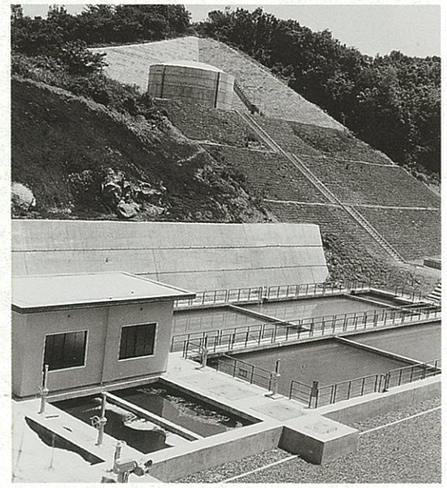


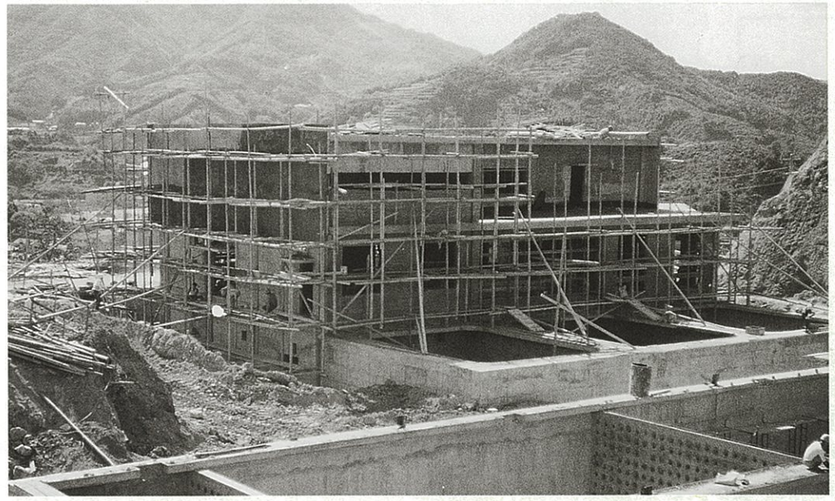
多良見町側に到達した導水管

道ノ尾浄水場（昭和43年2月完成）

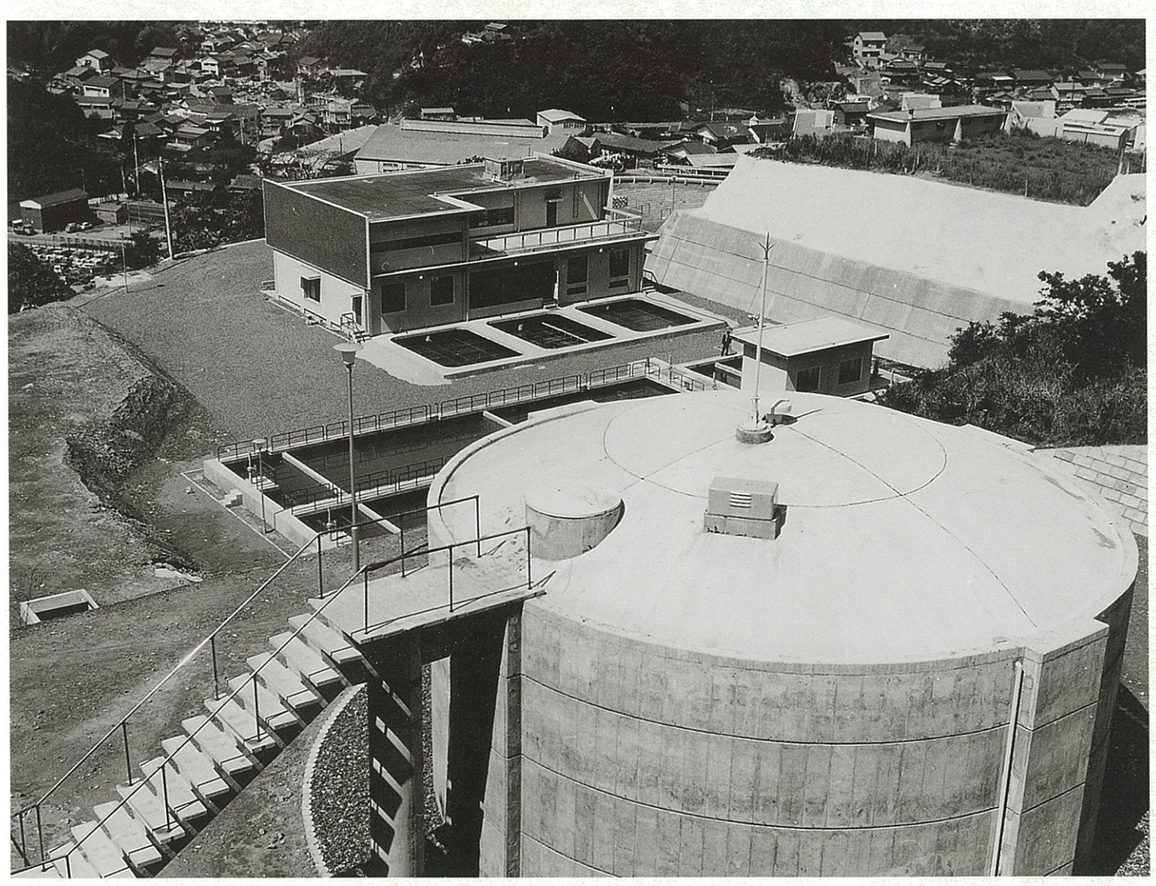


◀通水開始―道ノ尾浄水場が完成するまでの間は、浦上ダムに放水した。（昭和40年11月）
▼工事完成（昭和43年2月）



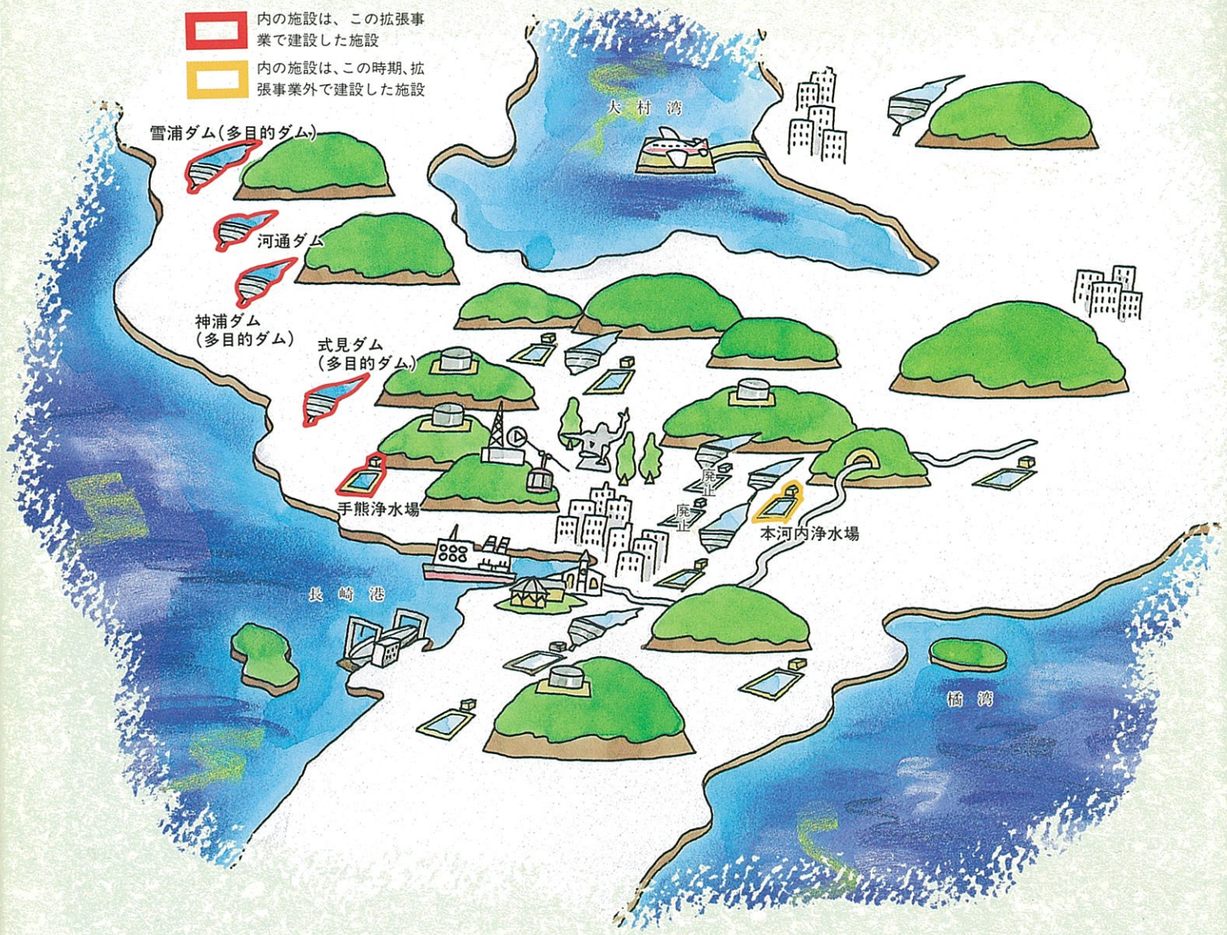


◀施工中の沈澱池と管理本館
▼配水池（容量2,000㎥）より工事が完成した浄水場を望む



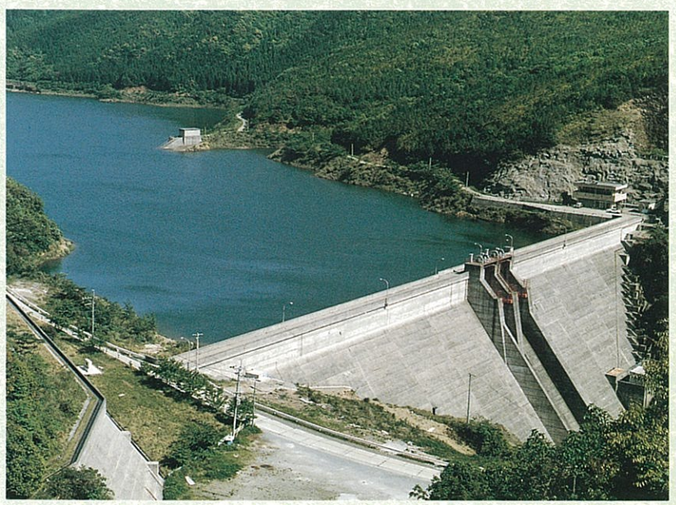
第6回拡張事業

昭和42年4月～昭和56年3月





[河通ダム]



[神浦ダム(多目的ダム)]
昭和46年完成
総貯水量 6,840,000㎥
水道有効量 5,070,000㎥
1日最大取水量 48,000㎥



[式見ダム(多目的ダム)]
昭和55年完成
総貯水量 2,150,000㎥
水道有効量 1,380,000㎥
1日最大取水量 12,000㎥



[手熊浄水場]
昭和50年完成
施設能力
85,060㎥/日



[本河内浄水場]
浄水施設整備統合事業
昭和55年完成
施設能力
20,000㎥/日



[雪浦ダム(多目的ダム)]
昭和52年完成
総貯水量 3,900,000㎥
水道有効量 2,220,000㎥
1日最大取水量 32,700㎥

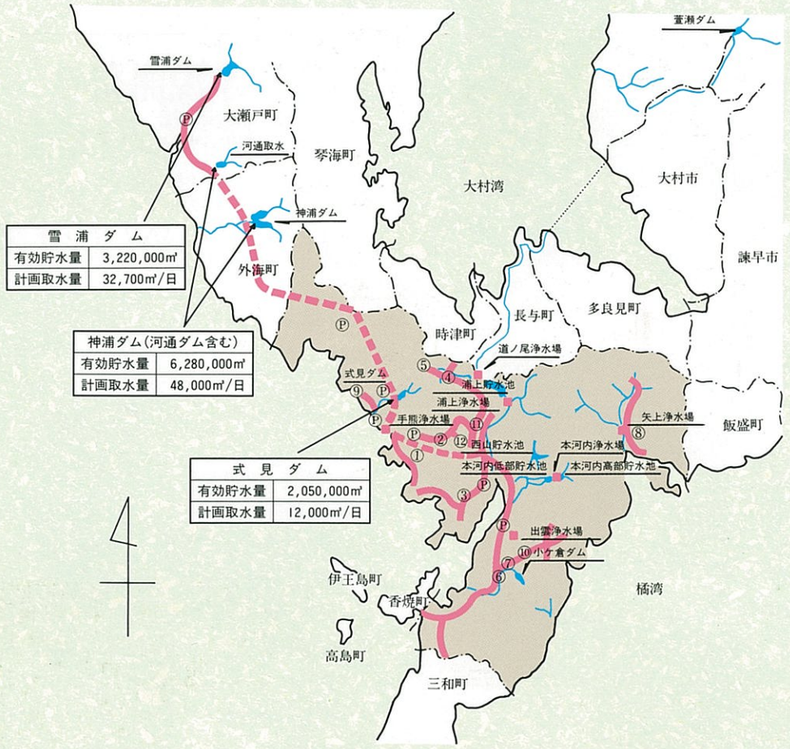
新しい水源開発の調査検討を重ね、4つのダム建設を立案 これにより供給も安定

度重なる給水制限に第5回拡張工事の着工直後から第6回拡張事業の計画に手をつけていた長崎市は、1965年（昭和40年）の異常渇水によるきびしい給水制限に至って、総合的な給水管理を進めるために給水計画を再検討する一方、新水源開発について、県とも協議を重ね調査検討していたダムの建設計画が立案された。

この計画は、市外の西彼杵郡外海町に神浦ダム、大瀬戸町に雪浦ダム及び河通ダム、市内の式見町に式見ダムの4つのダムを建設し、これらのダムから取水し、総延長28.4kmの導水管及び12本のトンネル導水路によって、市内の手熊浄水場へ導水するもので、1967年(昭和42年) 4月に着手、1981年（昭和56年） 3月に完了した。

このことにより、長崎市の施設能力は著しく増加し、安定した供給体制を確立することができた。

事業費		17,390,000千円
計画	総水人口	459,000人
	一日最大給水量	185,690㎥
主要工事		神浦ダム 雪浦ダム 河通ダム 式見ダム 手熊浄水場



雪浦ダム	
有効貯水量	3,220,000㎥
計画取水量	32,700㎥/日

神浦ダム（河通ダム含む）	
有効貯水量	6,280,000㎥
計画取水量	48,000㎥/日

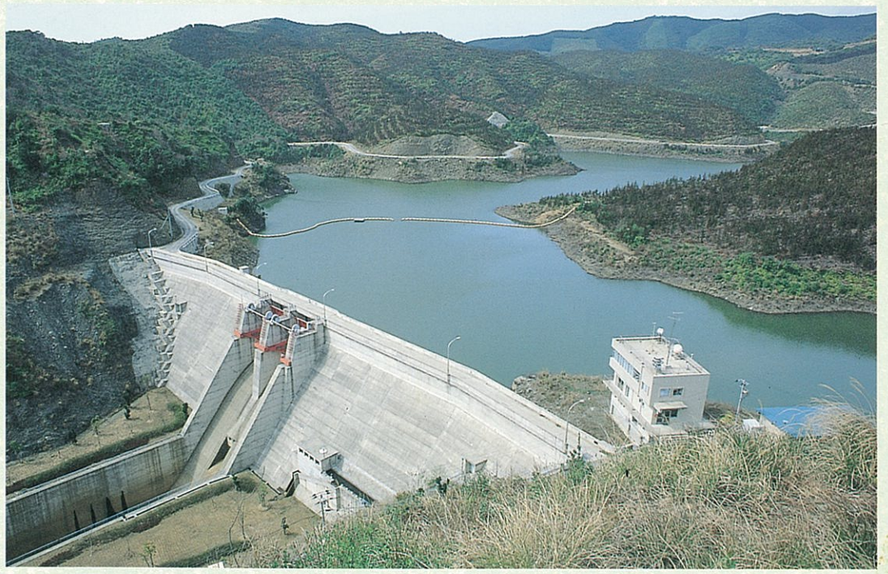
式見ダム	
有効貯水量	2,050,000㎥
計画取水量	12,000㎥/日

	配水施設	(㎥)
①	手熊トンネル配水池	29,800
②	小江原高部配水槽	2,500
③	稲佐高部配水槽	1,500
④	岩屋配水槽	2,500
⑤	岩屋減圧槽	1,000
⑥	小ケ倉配水槽	7,000
⑦	星取山配水槽	1,000
⑧	長龍寺配水池	1,000
⑨	式見配水池	500
⑩	大浦元町減圧槽	100
⑪	西町減圧槽	200
⑫	城山配水槽	300

凡例

- 導水路（トンネル・管水路）
- 浄水場
- 送配水管
- 行政区域境界線

第6回拡張事業計画平面図

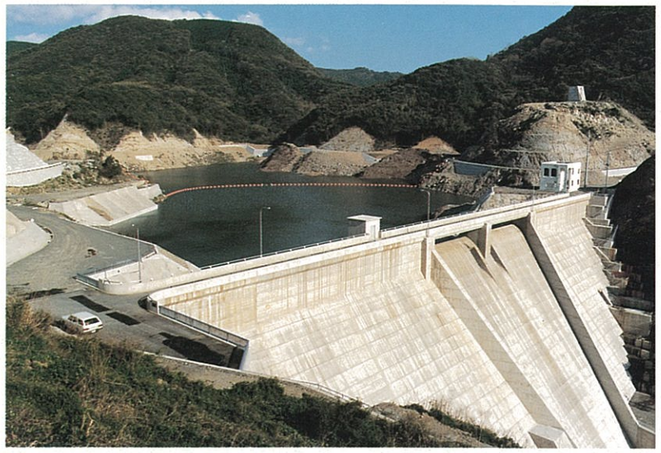


雪浦ダム（昭和52年3月完成）



◀河通ダム（昭和48年3月完成）
▼神浦ダム（昭和46年3月完成）







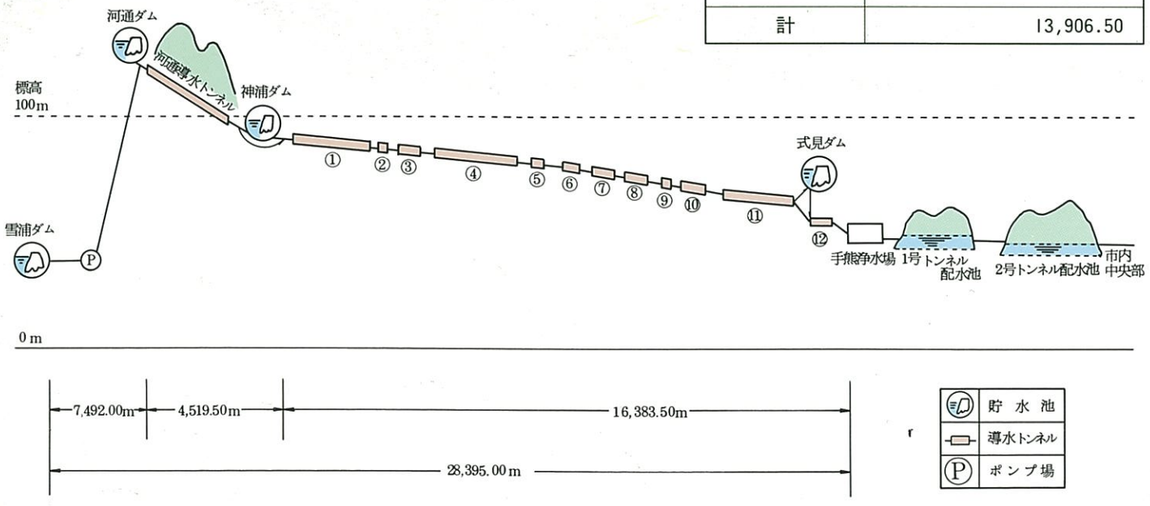
式見ダム（昭和55年3月完式）

導水施設の総延長

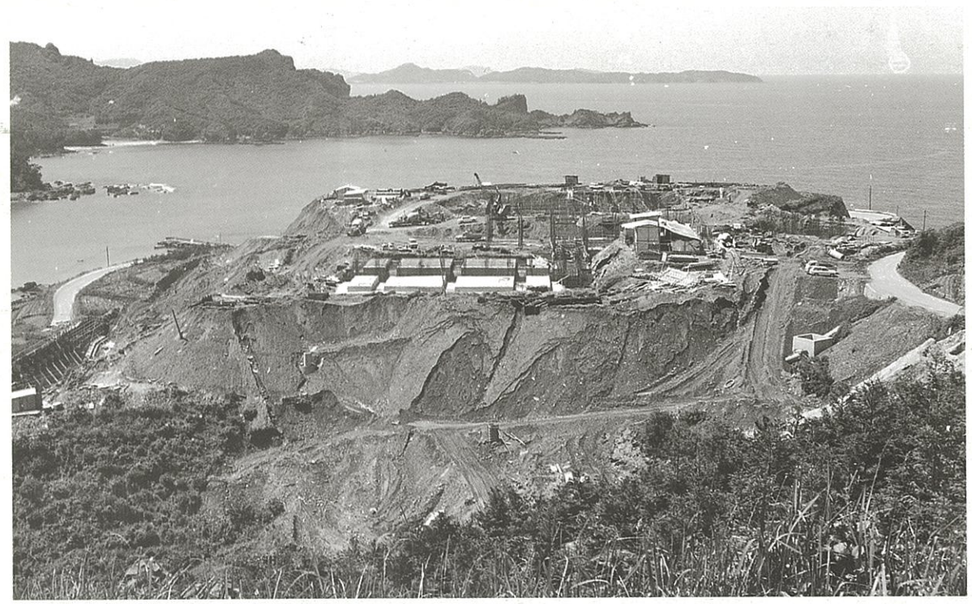
ア．雪浦ダム～河通取水ダム間導水施設
　導　水　管　　口径　700～500ミリメートル
　　延長　7,492メートル
　　（うち水管橋15.9メートル）
イ．河通取水ダム～神浦ダム間導水施設
　トンネル水路　　延長　3,667メートル
　導　水　管　　口径　800～600ミリメートル
　　延長　852.5メートル
　　（うち水管橋39.5メートル）
ウ．神浦ダム～手熊浄水場間導水施設
　トンネル水路　　延長　13,906.5メートル
　導　水　管　　口径　1,200~1,000ミリメートル
　　延長　2,477メートル
　　（うち水管橋447メートル）
エ．その他、ポンプ設備等付帯工事一式

神浦導水トンネル延長

トンネル番号	延　長（m）
1	2,801.20
2	93.00
3	1,372.30
4	2,862.00
5	111.00
6	310.00
7	763.00
8	779.00
9	217.00
10	623.00
11	3,140.00
12	835.00
計	13,906.50



導水施設（導水トンネル）延長図



手熊浄水場（昭和50年1月完成）
▼工事完成した手熊浄水場
◀工事中の手熊浄水場



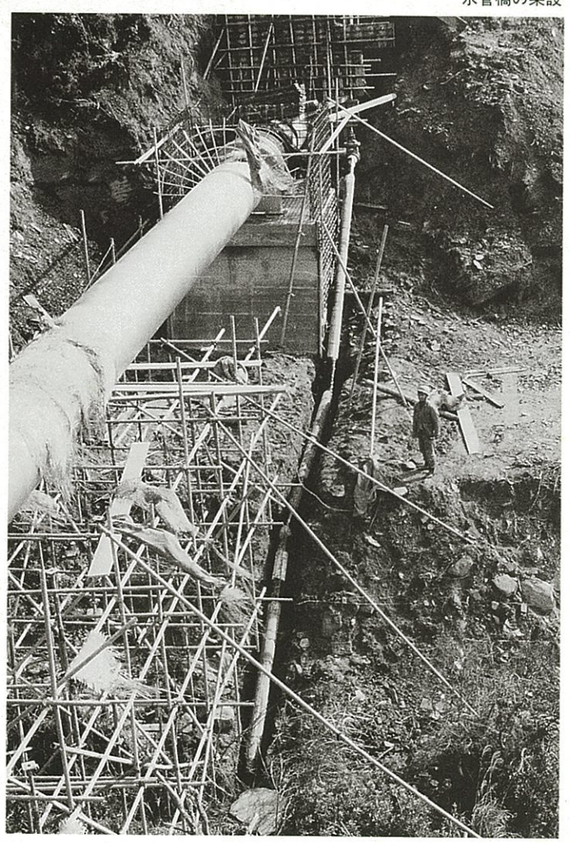


◀湧水に悩まされたトンネル工事

水管橋の架設



導水管の布設



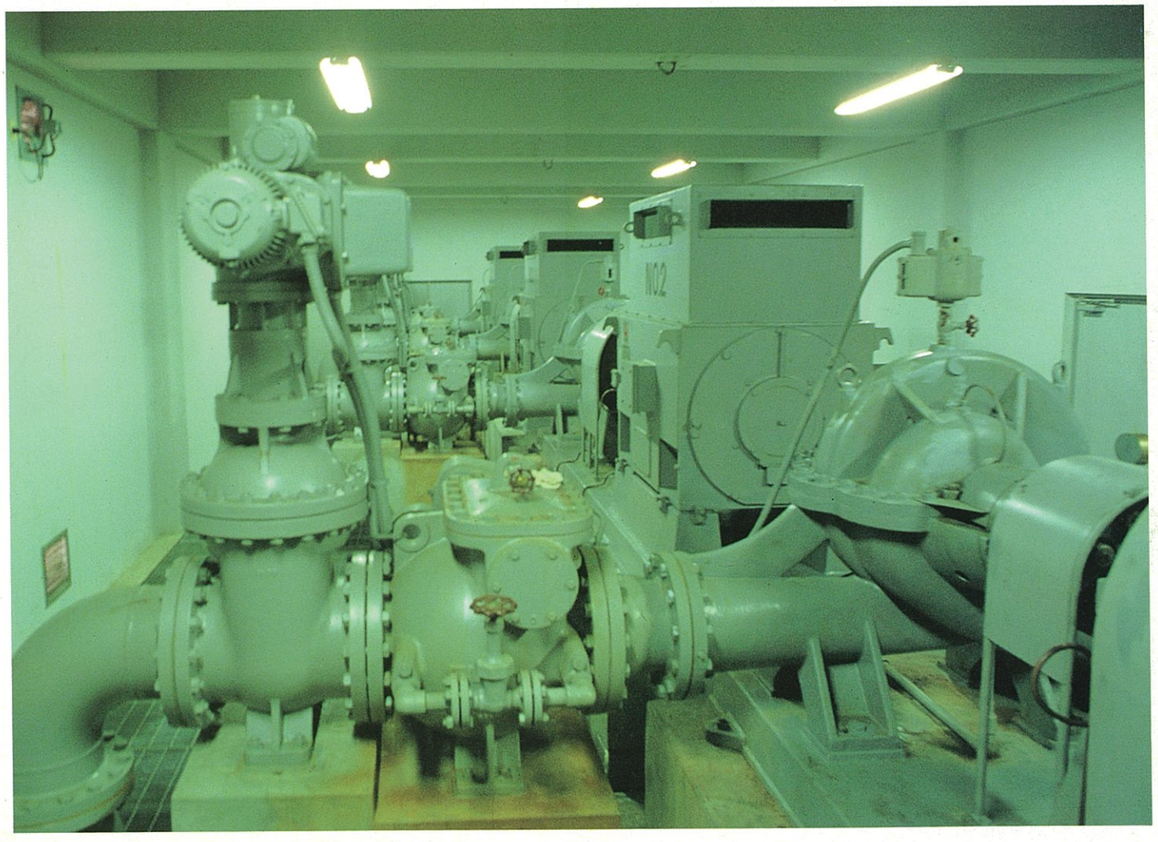
水管橋の架設

野を越え、谷を越え、地をもぐる導水路



完成した水管橋（式見川）

雪浦ポンプ設備



雪浦ポンプ設備

長崎サバク［給水制限］

第６回拡張事業完了までの長崎水道の歴史は、まさに、水とのたたかいの歴史といっても過言ではない。

地下水に恵まれず、また、大きな河川もない長崎では、用水の確保を貯水池にたよらざるを得ず、天候の不順はすぐさま水の心配につながった。

加えて、市勢の拡大はきびしい水事情に拍車を加えた。

1964年（昭和39年）９月21日から翌年５月28日までの約８カ月間続いた給水制限は、1965年（昭和40年）４月には浦上水系で２日に３時間の給水という戦後かつてないきびしいものであった。テレビ・新聞等で「長崎サバク」として全国に報道されたのもこの頃であった。

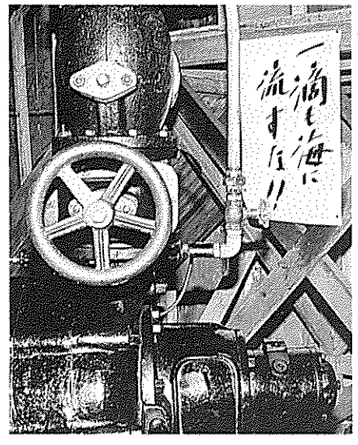
その後も水とのたたかいは続いているが、給水制限は、第６回拡張事業の推進にともなって1970年（昭和45年）３月以降実施されていない。

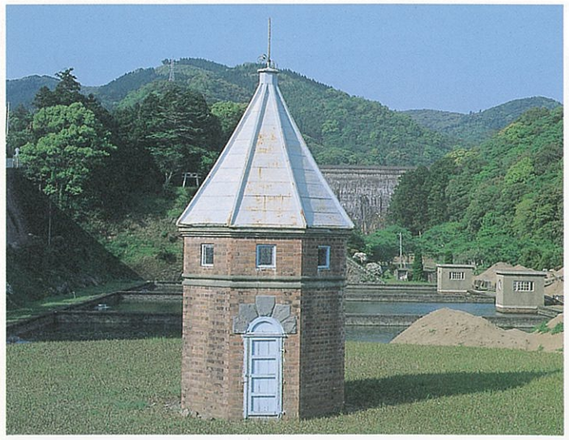












旧西山高部浄水場



旧西山低部浄水場



旧本河内浄水場

浄水施設整備統合事業

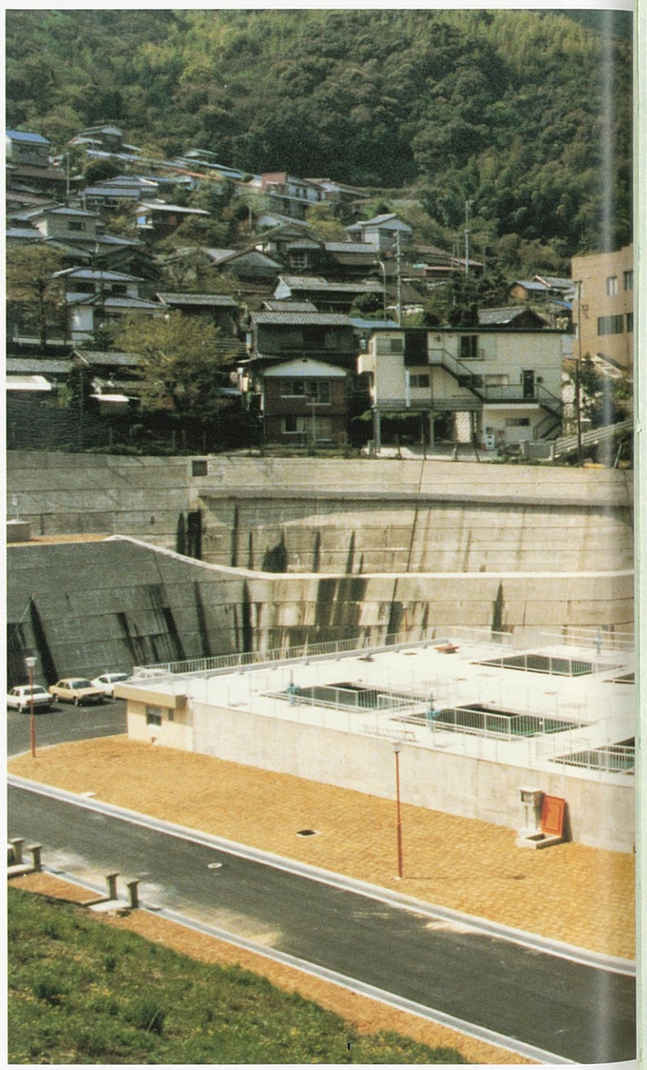
昭和51年４月～昭和56年３月

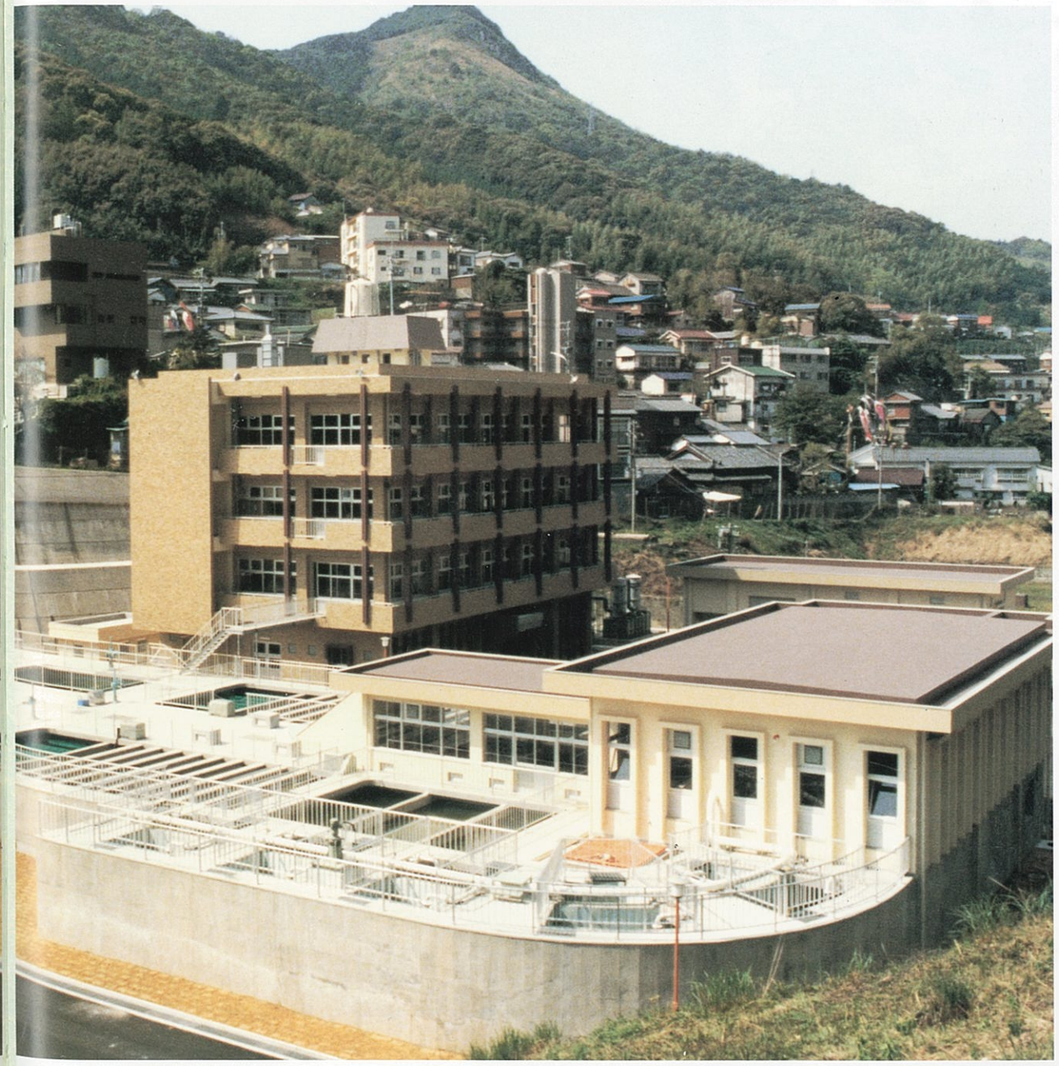
本河内と西山には３つの浄水場があった。長崎最初の浄水場である本河内浄水場と西山高部浄水場、西山低部浄水場がそれである。これらはそれぞれ独立した水系を持ち相互の連絡がなく、配水計画に支障を生じることも珍しくなかった。

たまたま、都市の道路計画によって西山低部浄水場を他へ移さなければならなくなり、その機会に三浄水場を本河内浄水場の一カ所に統合して、従来の緩速ろ過方式を急速ろ過方式に改め、最新式の浄水場を建設して給水の円滑化を図ることとなった。

この事業は、総事業費約36億円で、1976年（昭和51年）４月に起工し、1981年（昭和56年）３月に完了した。

この事業の完了で、本河内・西山水系の統合だけでなく、手熊水系とも連係することとなり、市内の配水系統が完全に一元化、相互の融通が可能となった。

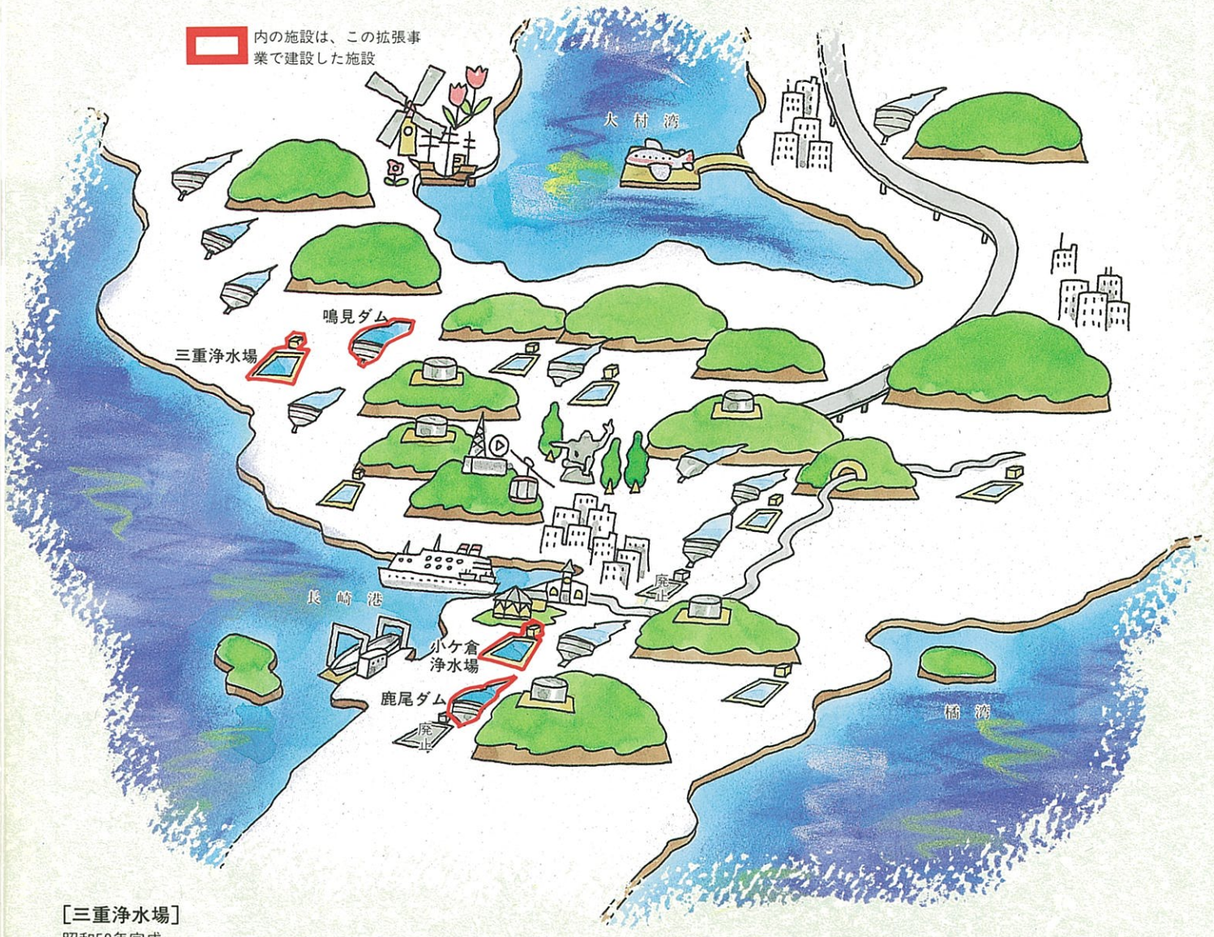




新本河内浄水場　昭和55年５月完成

第７回拡張事業

昭和54年４月～平成11年３月



［三重浄水場］
昭和59年完成
施設能力　8,100㎥/日





［鳴見ダム］
平成４年完成予定
総貯水量　2,250,000㎥
有効貯水量　2,190,000㎥
一日最大取水量　8,100㎥



［鹿尾ダム］
昭和63年完成
総貯水量　1,140,000㎥
水道有効量　680,000㎥
１日最大取水量　7,600㎥



［小ケ倉浄水場］
昭和62年完成
施設能力　19,800㎥/日

将来の生活用水の需要増大を見込み、新たなダム建設と簡易水道の統合を行う。

第６回拡張事業の完了により、当面安定した水需給体制が確立されたが、生活用水は将来さらに増大するものと見込まれたので、第７回拡張事業が計画された。

この事業は、鹿尾ダム・鳴見ダムの建設により新規水源を開発し、水需給の安定を図るとともに、計画給水区域の全面的な見直しにより、実情に見合った区域の設定を行うこととした。また、式見・三重地区の４つの簡易水道事業を中央水道事業へ統合することを計画、三重浄水場の完成により1984年度（昭和59年度）までに統合を完了した。

第１次変更／行政人口の伸びの鈍化に伴う給水人口の見直し、市周辺部の給水区域の拡張、水需給計画の見直し等により、目標年次等を見直した。

第２次変更／県施行の長崎水害緊急治水ダム建設事業により、新規水源施設の建設、既存水源施設の改築等が行われることに伴い、水道水源の位置及び取水量に変更を生じることから、水道施設全般にわたる見直しを行うとともに、茂木水道の中央水道への統合など、給水区域の拡張をはじめ、長期的な水需給計画の見直しを行った。これにより、事業の完了は1999年（平成11年）３月となった。

なお、鹿尾ダムは1988年（昭和63年）３月に完成、鳴見ダムは1992年（平成４年）３月の完成予定である。

計画	給水人口	447,250人
	一日最大給水量	191,420㎥
主要工事（事業）		鹿尾ダム（昭和63年完成） 鳴見ダム（平成３年完成） 三重浄水場（昭和59年完成） 小ケ倉浄水場（昭和62年完成） （施行中の事業） 太田尾・飯香浦統合簡易水道施設整備事業（第１次変更） 未給水地区無水源簡易水道事業（第１次変更） 上水道統合整備事業（第２次変更）

鹿尾ダム（昭和63年3月完成）



▶工事中の鹿尾ダム
▼完成した鹿尾ダム



鳴見ダム（平成4年3月完成予定）





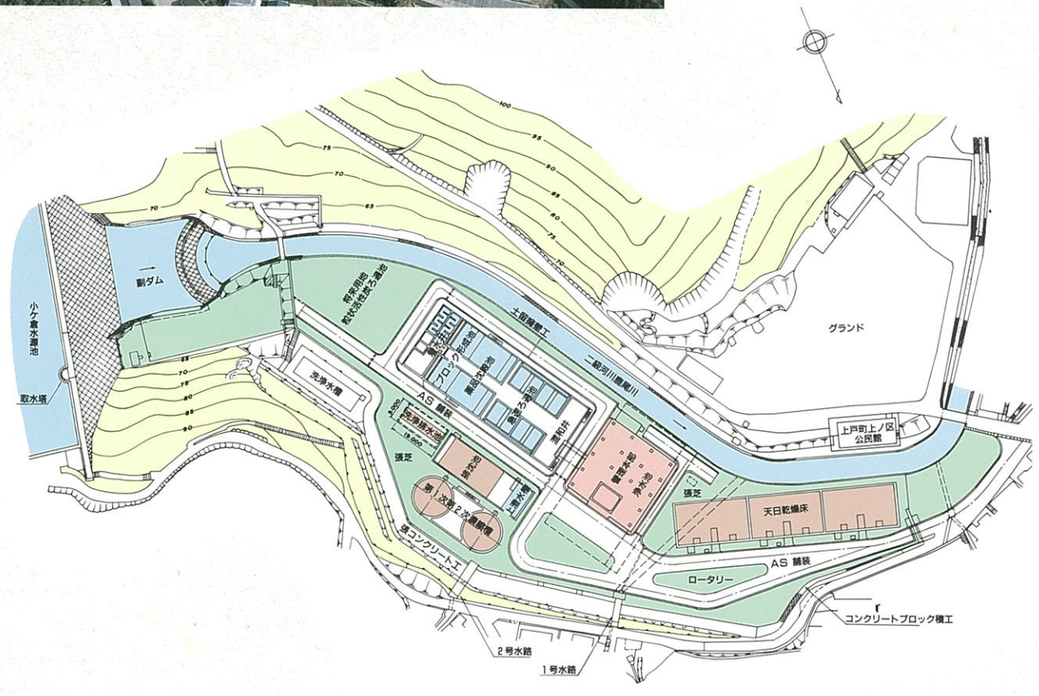
▲工事中の鳴見ダム
◀完成した鳴見ダム

小ケ倉浄水場（昭和62年3月完成）





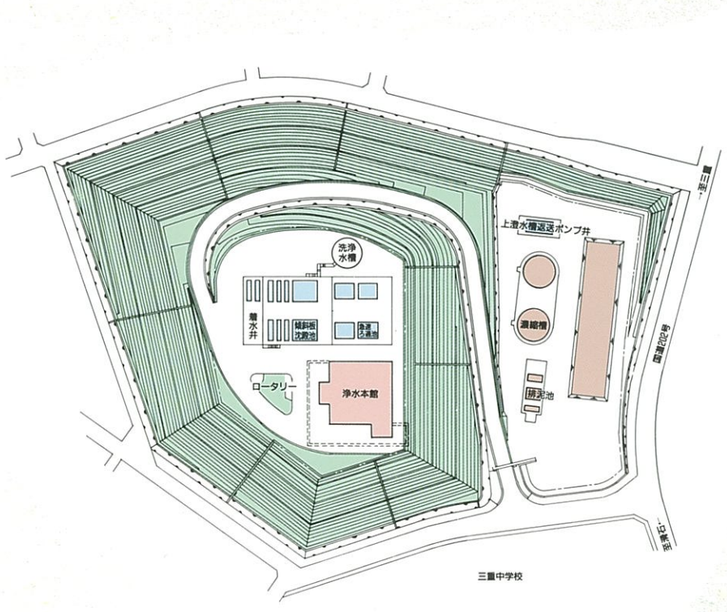
水管橋



小ケ倉浄水場配置平面図

三重浄水場（昭和59年6月完成）





三重浄水場配置平面図



7.23長崎大水害
（昭和57年７月23日）

1982年（昭和57年）７月23日、長崎は記録的な集中豪雨に見舞われた。

その日の降雨量は448㎜、時間最大127.5㎜。すり鉢型という長崎の特殊な地形とあいまって、水は悪魔と化し、尊い多くの人命と財産を奪った。死者・行方不明262名、被害総額2,120億円は、自然からの警告にしては、余りにも大きな犠牲を強いられた。

水道施設は、取水・浄水・配水施設を中心に、総額17億５千万円余りの被害を受けた。当時14カ所あった浄水場のうち12カ所が被害を受け機能を停止。断水戸数は全体の62%、約93,000世帯にのぼった。

各関係機関、隣接都市の応援を得て給水活動をすすめるとともに、全力で復旧にあたり、７月31日で矢上地区を除く旧市内は復旧、８月９日で矢上地区も復旧、16日ぶりに全面給水を再開した。

その後、この災害を教訓に、県が主体となって長崎水害緊急治水ダム建設事業が施行されており、新規水源施設の建設、既存水源施設の改築等が進められている。





本河内浄水場、本河内高部貯水池（昭和57年７.23大水害）

現在の長崎水道

長崎の水道は、創設以来７回の拡張事業を経て、
現在、安定した水の供給を保っている。
今後も長期的な展望をもち、
将来における水の安定供給を図るため、
「いつでも、どこでも、安全でおいしい水を」
を合言葉に、水道普及率の向上
（平成２年度末現在97.24%）、
一人１日最大給水量の増加（同390ℓ）、水資源の開発・確保、
漏水対策の強化、
水道水の安全確保・おいしさの追及等、
今を、そして明日を、
努力で積み重ねなければならない。

こしき岩展望台型配水タンク



いろいろな整備事業

●太田尾、飯香浦統合簡易水道施設整備事業

第７回拡張事業の認可の一環として、太田尾、飯香浦地区における給水の季節的な不安定状態を解消し、あわせて近隣未給水地区の解消を図るため、両地区の簡易水道を上水道事業へ統合することとし、1988年（昭和63年）４月に着手、1992年（平成４年）３月、完成予定である。

この中で、長崎水道初の市民開放型の水道施設として1990年（平成２年）３月に展望台型のこしき岩配水タンクが完成した。



●上水道統合整備事業

長崎県施行の長崎水害緊急治水ダム建設事業の中で、新規水源開発が見込まれることにより、本市の施設配置計画を総合的に見直し、あわせて茂木地区の給水の万全を期するため、茂木水道事業を中央水道事業に統合し、長崎市上水道事業として一元化するもので、第７回拡張事業の認可の一環として施行している。

◀長崎水害緊急治水ダム建設事業
既存の西山ダムの下流に建設中の新西山ダム

●未給水地区無水源簡易水道事業

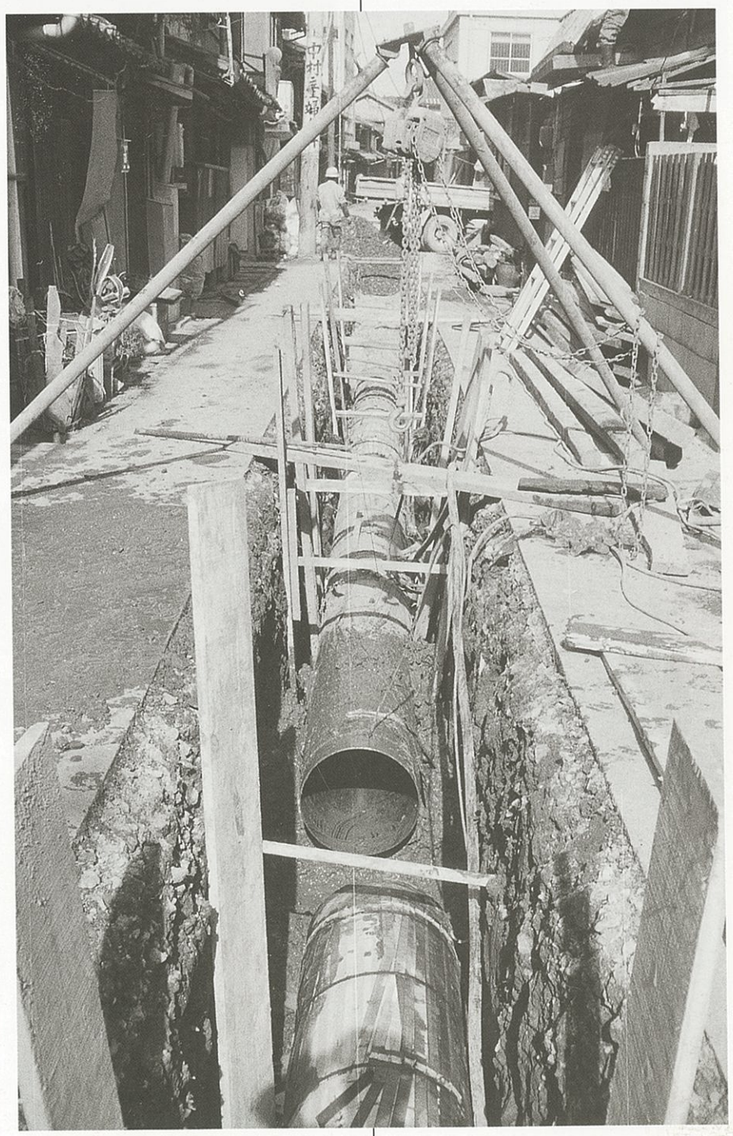
第７回拡張事業の認可の一環として、上水道から未給水地区へ配水管を布設し、浄水を送水しようとするもので、この事業を推進することにより市周辺部の未給水地区を逐次解消し、普及率の向上を図ることとしている。

●配水施設整備事業（第５次）

（昭和63年度～平成４年度）

市内一円の出水不良地区や未給水地区の解消ならびに漏水防止対策の強化のため、1988年度（昭和63年度）から第５次５カ年継続事業で施行している。





水道管理

水をみつめる真剣な眼差し、
安全でおいしい水を
おとどけします。



▶水道水に含まれているごくわずかな物質を検査しています。

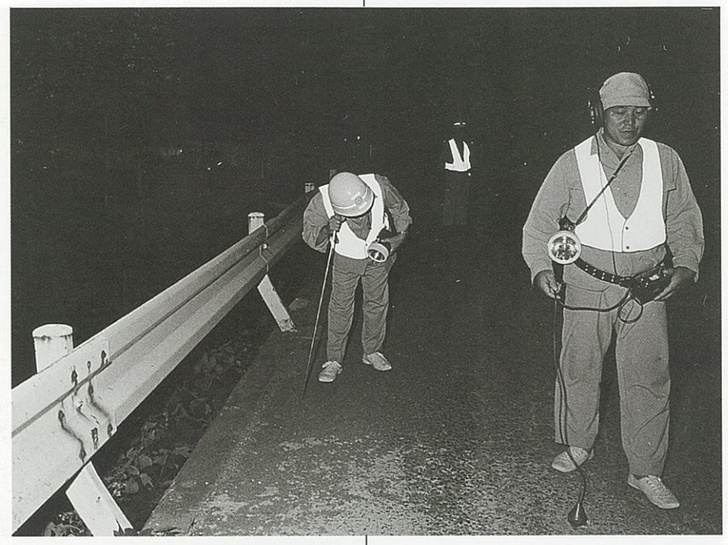




▲水道水になる前の水（ダムや貯水池の水）の検査をしています。
◀ダムや貯水池の水にすんでいる小さな生物を顕微鏡で調べています。

漏水調査
テレメーターシステム

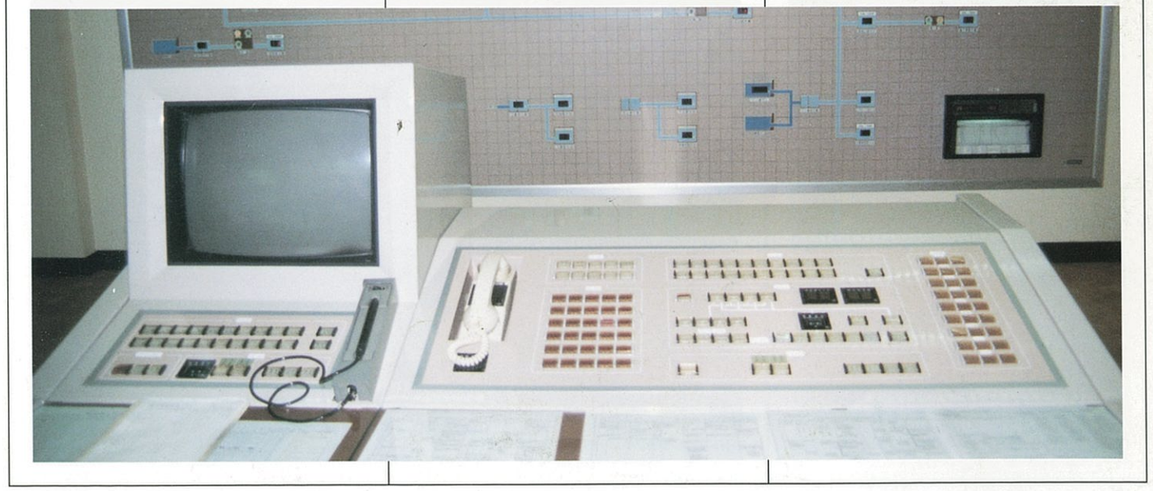
一滴の水も大切に、
円滑な給水をめざします。



▶管の破損をいちはやく発見。すみやかな処置で大切な水を無駄にしません。



市内の主なポンプ場をＮＴＴ専用回線を介して、集中監視制御を行い、円滑な給水を行っています。
◀テレメーターシステム
（配水施設集中管理システム）
▼監視板と操作卓



電算導入

ＯＡ導入でスピードアップ。
市民サービスの向上を
めざします。





▶▼コンピュータの導入により、スピードアップされた料金の収納受付



◀利用者、住民、市民、人の異動もコンピュータを利用してすみやかに処理。



▲▶コンピュータ本体と周辺機器



広報活動

●街頭キャンペーン
（平成2年6月2日）





▲舞台での楽しいアトラクション。中央にあるのが水道パイプで作ったドラムです。
◀市民の方からの水道の相談に応じています。
▼100周年記念の水の缶詰を配りました。





◀田手原配水タンク前

●水道ハイキング
（平成２年６月３日）



▶本河内高部ダムの上を歩いています。
▼こしき岩展望台型配水タンクがゴールです。





▲小ケ倉ダム下の副ダムの中で
鯉のつかみどりを行いました。



●浄水場で遊んでみよう
（平成２年７月29日）

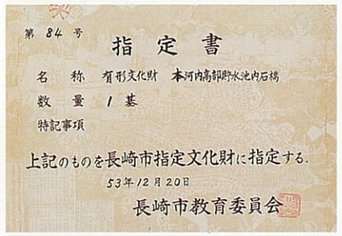




◀浄水場内にはいろんな
出店が開店しています。

水道施設にある文化財

●幻の石橋



第 84 号

指　定　書

名　称　有形文化財　本河内高部貯水池内石橋
数　量　1 基
特記事項

上記のものを長崎市指定文化財に指定する。

53年12月20日

長崎市教育委員会

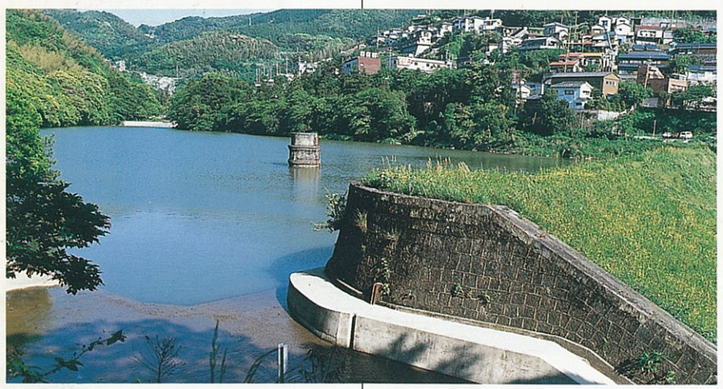
本河内高部ダムの水底に「幻の石橋」が眠っている。妙相寺道にあった石橋がダムづくりのため水底に沈んだもので、水不足でダムが干しあがれば、その姿を見せる。

自然石を組み合わせたアーチ式の素朴なもので、江戸時代末頃に地元住民の手で架設されたといわれている。

1978年（昭和53年）12月20日、長崎市指定文化財に指定された。



ダムの水底に眠る「幻の石橋」



近代水道百選に選定

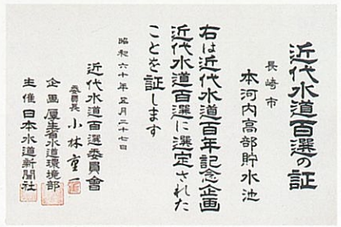
●本河内高部貯水池

長崎水道最初のダム、本河内高部ダムは、水道専用として建設されたダムでは、我が国最古のものである。

1985年（昭和60年）5月27日、近代水道百年記念企画近代水道百選に選定された。



西山ダム



近代水道百選の証

長崎市
本河内高部貯水池

右は近代水道百年記念企画
近代水道百選に選定された
ことを証します

昭和六十年五月二十七日

近代水道百選委員会
委員長　小林　庸一
企画　厚生省水道環境部
主催　日本水道新聞社

▲近代水道百選の証
◀本河内高部ダム

歴史的に価値 国が保全・修復へ

●本河内高部ダム、西山ダム

由緒ある古い貯水池や、明治時代に欧州の先進的な土木技術を導入して建設したダムなど、歴史的に価値があるダムを保全・修復し、地域の再開発に役立てることを目的に、建設省は1990年（平成2年）4月から「歴史的ダム保全事業」を着手した。

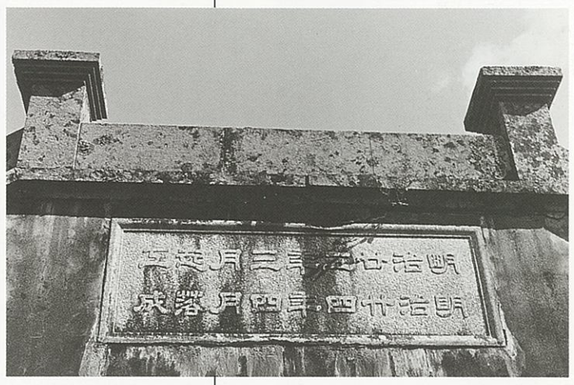
その対象ダムとして、長崎市の本河内高部ダムと西山ダム、大阪狭山市の狭山池の3カ所が指定された。

今後、ダム及びその周辺の保全・再生・整備が進められ、洪水対策と併せて、住民のレクリエーションの場として、また、学習・教育の場としても利用できるようになる。

水道施設 銘板ア・ラ・カルト

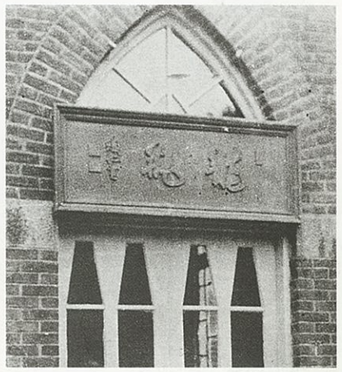
本河内高部の創設水道完成に当たって、有栖川宮からご真筆の「龍瓶」の二字が下賜されたが、以後増設の水源地には、銘板がはめられた。いづれも、絶ゆることなき清浄の水源を祈念する、佳句が選ばれている。

創設水道、起工・落成の銘板
明治22年3月起工
明治24年4月落成
本河内高部ダム





龍瓶　旧本河内高部水道量水空にあった龍瓶の銘板▶
有栖川宮熾仁親王書





水早無増減
男爵　伊東巳代治書
本河内低部ダム



寒漿済我人
男爵　伊東巳代治書
西山ダム



玉聾珊然
第7～第8代市長　高橋行一書
小ケ倉トンネル入口



滾々不盡
市長　高崎行一書
出雲配水池入口



噴玉洞
第15代市議会議長　重藤鶴太郎書
出雲浄水場トンネル出口

人力通霄漢　市長　錦織　幹
小ケ倉ダム（現存せず）
（注）右の外、**英泉**などがある。



玉聲
男爵　伊東巳代治書
西山低部浄水場導水トンネル入口

深堀地区	昭和33年 4 月	給水開始
	昭和48年 4 月	中央水道統合
小江地区	昭和34年 6 月	給水開始
	昭和48年 5 月	中央水道統合
手熊地区	昭和34年12月	給水開始
	昭和48年 5 月	中央水道統合
矢上地区	昭和31年 3 月	給水開始
	昭和48年 4 月	中央水道統合
古賀地区	昭和38年 4 月	給水開始
	昭和48年 4 月	中央水道統合
戸石地区	昭和35年 4 月	給水開始
	昭和56年 4 月	中央水道統合
式見地区	昭和29年 4 月	給水開始
	昭和49年 3 月	中央水道統合



茂木太田尾
昭和30年 4 月　給水開始



茂木飯香浦
昭和32年 4 月　給水開始

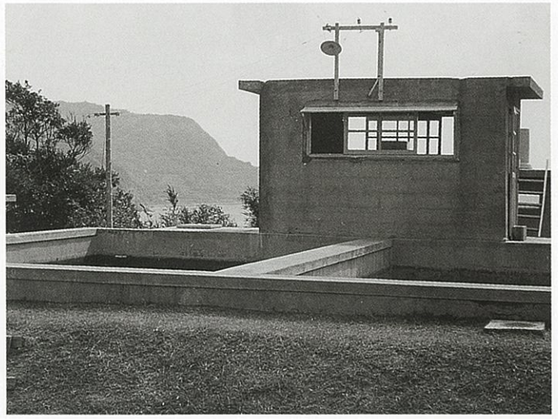


茂木千々
昭和33年 4 月　給水開始

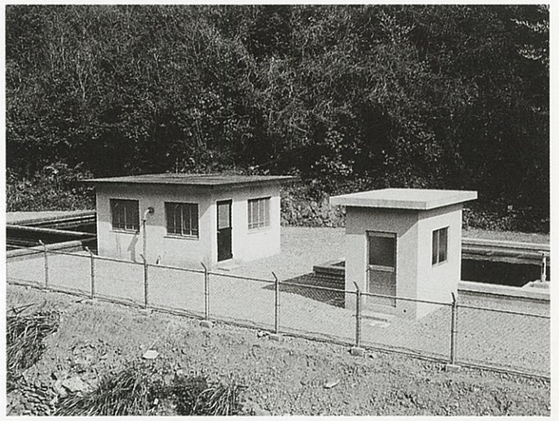
長崎の簡易水道事業

長崎市の周辺には、地形的な条件から中央水道の給水区域を拡張し、施設を延長することが困難な地区が多くあった。それらの地区では、給水区域や給水人口を限定した簡易水道事業が運営されていた。

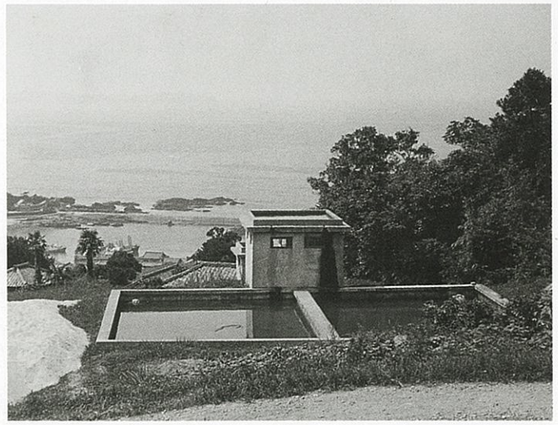
今では、中央水道の拡大に伴って、従来の簡易水道を廃止し、これを中央水道に吸収している。現在茂木地区にある３ケ所の簡易水道事業を運営している。



式見相川
昭和35年 4 月　給水開始
昭和46年 4 月　整備事業完了
昭和59年 3 月　中央水道統合



三重東部
昭和46年12月　給水開始
昭和59年 6 月　中央水道統合



三重平地
昭和41年 4 月　給水開始
昭和44年 4 月　整備事業完了
昭和59年 6 月　中央水道統合



三重樫山
昭和32年 3 月　給水開始
昭和50年 3 月　整備事業完了
昭和59年 6 月　中央水道統合

長崎水道年表

西暦(年　号)	で　き　ご　と	市のできごと
1667(寛文７)	倉田次郎右衛門、倉田水樋の布設工事に着手	
1673(延宝元)	**倉田水樋完成**……(本誌Ｐ８)	
1707(宝永４)	オランダ屋敷水樋（出島水樋）完成	
1761(宝暦11)	立山屋敷専用水樋（狭田水樋）完成	
1810(文化７)	西山水樋完成	
1886(明治19)	水道布設計画	
1889(〃 22)	水道創設工事に着手	長崎市制施行
1891(〃 24)	本河内（高部）水源地（本河内（高部）ダム、本河内浄水場）完成 水道事務所を開設 給水規則を制定 **５月16日、給水開始**……(本誌Ｐ10)	
1900(〃 33)	第１回拡張事業に着手	
1903(〃 36)	本河内低部ダム、西山低部浄水場完成	
1904(〃 37)	西山高部水源地（西山ダム、西山高部浄水場）完成 **第１回拡張事業、竣工**……(本誌Ｐ20)	
1919(大正８)	第２回拡張事業に着手	
1926(〃 15)	小ケ倉ダム、出雲浄水場完成 **第２回拡張事業、竣工**……(本誌Ｐ26)	
1933(昭和８)	放任給水を**全計量給水制**とし、各戸にメーターを設置……(本誌Ｐ35)	長崎市歌選定
1935(〃 10)	地中聴音器使用による初の漏水調査を実施	
1939(〃 14)	**茂木水道**給水開始……(本誌Ｐ45)	
1941(〃 16)	第３回拡張事業に着手	
1945(〃 20)	浦上水源地（浦上ダム、浦上浄水場）完成 **第３回拡張事業、竣工**……(本誌Ｐ36) **原爆投下**の被害を受け、浦上水源地の機能停止……(本誌Ｐ42) 戦災復興事業、応急復旧事業着手	８月９日午前11時２分、原子爆弾が投下される
1950(〃 25)	**鹿尾川水道組合**給水開始……(本誌Ｐ44)	平和公園開設
1952(〃 27)	地方公営企業法の施行に伴い水道局設置	
1954(〃 29)	第４回拡張事業に着手 式見簡易水道給水開始	
1955(〃 30)	太田尾簡易水道給水開始	福田村、深堀村、日見村を市域に編入 平和祈念像除幕式挙行
1956(〃 31)	矢上簡易水道給水開始	
1957(〃 32)	飯香浦簡易水道給水開始 矢上水源地（河川取水、矢上浄水場）完成	
1958(〃 33)	千々、深堀両簡易水道給水開始	
1959(〃 34)	日見地区へ給水開始 小江、手熊両簡易水道給水開始	市庁舎落成
1960(〃 35)	相川、戸石両簡易水道給水開始	
1961(〃 36)	川平川取水工事（第４回拡張事業第１次変更）竣工 滑石地区へ給水開始 萱瀬ダム（大村市）完成 水道局庁舎落成 浦上、小ケ倉両水系で１日３時間の給水制限を実施	
1962(〃 37)	愛宕地区へ給水開始 鹿屋川水道組合からの追加分水工事（第４回拡張事業第２次変更）竣工	茂木町、式見村を市域に編入
1963(〃 38)	古賀簡易水道給水開始 第５回拡張事業に着手	東長崎町を市域に編入
1964(〃 39)	長与川取水工事（第４回拡張事業第３次変更）竣工 **第４回拡張事業、竣工**……(本誌Ｐ46)	
1965(〃 40)	最大の水飢饉（長崎サバク） …浦上水系で２日に３時間の給水制限を実施……(本誌Ｐ68) 大村湾海底導水工事竣工…一部導水開始	
1967(〃 42)	宮摺川取水工事（第５回拡張事業第１次変更）竣工 第６回拡張事業に着手	
1968(〃 43)	道ノ尾浄水場完成…大村市萱瀬ダムからの取水開始 **第５回拡張事業、竣工**……(本誌Ｐ52)	
1971(〃 46)	神浦ダム（西彼杵郡外海町）完成 手熊浄水場の一部完成に伴い、神浦ダムからの取水開始 水道料金口座振替制度導入	開港400年
1973(〃 48)	三重村編入に伴い、樫山、平地、東部の各簡易水道を引継ぐ 河通ダム（西彼杵郡大瀬戸町）完成 深堀、矢上、古賀、小江、手熊の各簡易水道を中央水道に統合	三重村を市域に編入 時津町横尾地区を市域に編入
1974(〃 49)	式見簡易水道を中央水道に統合	
1975(〃 50)	手熊浄水場完成 検針、集金業務を完全委託 北営業所設置	長崎市中央卸売市場落成
1976(〃 51)	水道利用加入金制度導入	
1977(〃 52)	雪浦ダム（西彼杵郡大瀬戸町）完成	
1978(〃 53)	河通導水トンネル工事完成…雪浦ダム、河通ダムから本格的取水開始 本河内高部ダム内の石橋「幻の石橋」、長崎市指定文化財に指定される……(本誌Ｐ88)	

長崎水道年表

1979(昭和54)	**第7回拡張事業**に着手……(本誌P72)	
1980(〃 55)	式見ダム完成 本河内浄水場完成…本河内、西山高部、西山低部の3浄水場を統合 **浄水施設整備統合事業竣工**……(本誌P70)	
1981(〃 56)	**第6回拡張事業、竣工**……(本誌P60)	
1982(〃 57)	**7・23長崎大水害**の被害を受け、手熊浄水場及び道ノ尾浄水場を除く12浄水場の機能停止…16日後、全面復旧……(本誌P78)	
1983(〃 58)	配水施設集中管理システム（テレメーターシステム）稼働……(本誌P83)	
1984(〃 59)	三重浄水場完成 相川、樫山、平地、東部の各簡易水道を中央水道に統合	
1985(〃 60)	本河内高部ダム、近代水道百選に選定される……(本誌P88)	
1987(〃 62)	電算開発プロジェクト発足 小ケ倉浄水場完成…出雲浄水場廃止 鹿尾川水道組合解散 長崎水害緊急治水ダム建設事業に着手	
1988(〃 63)	鹿尾ダム完成	
1989(平成元)	水道料金及び水道利用加入金に消費税を転嫁 電算本格稼動…独自調定開始……(本誌P84)	市制施行100周年記念式典挙行 魚市場、新長崎漁港に移転
1990(〃 2)	本河内高部ダム及び西山ダム、「歴史的ダム保全事業」の対象ダムに指定される……(本誌P88) 初の市民開放型水道施設としてこしき岩配水タンク完成	
1991(〃 3)	水道創設100周年記念式典を挙行	

あとがき

長崎水道創設100周年を迎えるにあたり、水道100年の歴史を子供達にも知ってもらえたらと、また、手軽に見られる本をと、この写真集の編集に取り組みましたが、本を創ること自体経験があまりない私たちにとって、手探りの作業でした。

内容をどうするか、どのようにまとめるか、本の大きさは、ページ数は等々、一つ一つを確認していくしかありません。また、写真についても、たくさんあるようでもイメージに合うものは、というとなかなか見つからない。捜し出すのに何日もかかることもたびたびでした。

しかし、各方面の方々のご協力とご指導をいただき、何とか印刷までたどりつけました。

本の構成は、長崎水道100年の歩みを拡張事業ごとにとらえ、その頃の他の事業や大きな出来事を併記した、いわば暦年的な構成としました。後半の「NAGASAKI WATER NOW」は、現在取り組んでいる事業や、現在の水道局を紹介しています。

さて、長崎水道の歴史と現状が、手に取られたみなさんに、少しでも分かっていただけたらうれしいのですが。

平成3年2月

長崎市水道局
長崎水道創設100周年事業実行委員会

写真・資料提供協力者一覧
長崎市博物館
長崎国際文化会館
日本報道写真連盟西部支部会員　田中　直 氏
ナガサキフォトサービス
長崎新聞社
西日本新聞社

参考資料文献
長崎水道九十年の歩み

'91長崎水道創設100周年

NAGASAKI WATER 100

平成３年(1991)５月16日　発行
発行●長崎市水道局
編集・企画●長崎市水道局　長崎水道創設100周年記念事業実行委員会
〒850 長崎市桜町６番３号　TEL (0958)25-5151代表
印刷●昭和堂印刷
〒850 長崎市栄町６番23号田中ビル　TEL (0958)21-1234　FAX (0958)23-8740